

平成29年度 学校評価結果

(1)「確かな学力」の育成に向けて

学校関係者評価	重点目標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得 ○ 問題解決的な学習や探究活動の充実 ○ LD等支援の必要な子どもの学力向上
	具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力状況調査や学習確認プログラムの結果分析を行い、指導計画に基づいた授業改善を行う。 ○ 言語活動をすべての教科において実践することで、<u>教科指導におけるアウトプット</u>を行う。 ○ <u>家庭学習（自学自習のすすめ）の定着</u>と読書活動（朝読書・図書館活用）の取り組みにより、自ら学ぶ姿勢と言語活動の推進を行う。 ○ 個別の指導計画に基づき、組織的な学習支援を行う。
	（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習を1日1時間以上している。 ○ 月に1冊以上本を読んでいる ○ 子どもと将来や進路の話をよくする。 ○ 親が言わなくても自分からすすんで学習している。 ○ 子どもと読んだ本の感想を話し合ったりしている。
	各種指標結果（1回目） <ul style="list-style-type: none"> ・テスト結果や学校での学習状況については、まだまだ家庭の中で共有できていない状況がある。 ・家庭学習については、ほとんどできていない状況である。 ・読書活動については、経年比較においても徐々に定着している。
	自己評価 <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭が学習について、日常的に情報共有ができていないことの反映である。 ・家庭学習について、子どもへの意識付、保護者の協力体制、学習内容の吟味、学校と保護者との協力関係等、多くの課題を含んでいると考えるべきである。 ・毎日の朝読書の定着度が大きく反映している。また、図書館へ足を運ぶ子どもの数も大幅に増えていることも大きな要因である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習についての発信を、いろいろな時期に学校から家庭へしていく必要がある。 ・家庭学習について、学校として多くの視点からこの状況を分析し、取り組みを考えていく必要がある。
	学校関係者評価 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題・テストの位置づけを明確にしなければならない。 ・家庭学習に対して保護者がどこまで関与すべきなのか共通理解が必要である。 ・課題を与えなければ家庭学習ができない状況にある。自主的に学習する力をつけたい。 ・読書の重要性を再確認した。家庭でも読書の時間を増やしたい。 <p>評価日 平成29年10月26日</p> <p>評価者 学校評議員</p>

各種指標結果（２回目）		
<ul style="list-style-type: none"> ・学習についての家庭での情報共有は概ねできている。 ・授業を理解できていると感じている子どもは１割に満たない。 ・家庭学習の定着度やや読書への関心度もきわめて低い。 		
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの授業への理解度は大変厳しい状況がある。 ・家庭学習においても依然課題が多く、このことが授業の理解度につながっている。 ・家庭での学習についての情報共有は前期アンケートに比べ、若干上昇している。読書への関心度も大きな課題であり、改善策が必要である 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した授業づくり ・充実した教科会の定期的な開催を通じて、有意義なＯＪＴによる同僚性の構築 ・評価を明確にした指導との一体化 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・親として家庭での学習にどのように関わっていくべきか戸惑いがある。 ・塾だよりになっている現状を学校も真摯にとらえる必要がある。 ・自ら進んで学習できるように宿題や課題の内容を興味・関心のあるものにする。 ・自分で工夫することの楽しさや大切さを伝えたい。 	
	評価日 平成３０年１月２５日	評価者 学校評議員

(2)「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 規範意識の向上 ○ 人権教育の充実 ○ 道徳教育の充実
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ すべての教育活動を通じて、<u>生命や人権を大切にする豊かな心を育てるとともに</u>、道徳教育をさらに充実させる。 ○ 日常の教科指導や学級指導においても、道徳教育を横断的に実施し、子どもが生命や人権について自主的に考え・実践できる力を育成する。 ○ <u>他人を認め合える好ましい人間関係の育成と生命尊重の心を育む。</u> ○ 携帯・スマートフォンの適切な使い方を身に付けさせる。 ○ <u>すべてのもの（公共物も含む）を大切にする姿勢を育む。</u> ○ 生徒と教職員がともに<u>校内外の清掃活動や花植活動を行うこと</u>により、美化意識の向上に努める。 ○ <u>地域の行事やボランティア活動に積極的に参加し</u>、子どもたちが地域を愛する心を育てる。
	<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校のきまりや約束を守って生活している。 ○ 家庭での携帯・スマホのルールを決めている。 ○ 平日に、家族で夕食を一緒に食べている。 ○ 挨拶をすすんでしている。 ○ 家事手伝いなどをすすんでしている。
	<p>各種指標結果（１回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識は昨年度同様、とても高い状況があるといえる。校内外において挨拶の励行ができています。 ・携帯、スマホの家庭での使用ルールについては、４割の家庭でルールが決められていない。
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高まりにより、人の話を聴くという姿勢が定着している。 ・携帯およびスマホの問題については、学校への持ち込みの禁止などの遵守事項については、概ね守られているといえる。しかしながら、SNSに関わる事案については多くの課題がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSに係るトラブル状況が深刻な中で、保護者への啓発や地域への呼び掛けも積極的に行っていく必要がある。 ・社会や学校のルールを守る意義を子ども自身に考えさせ、「自校指導力」を身に付けさせる教育活動の展開が望まれる。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科科に伴って、今の時代に合った道徳をおこない、基本的人権を持ち合わせた上での道徳教育でなければならない。 ・携帯・スマートフォンの所持・使用については、もっと家庭が責任を負い、各家庭でしっかりとルールを作って使用させる。 ・家庭での普段のコミュニケーションが社会性をはぐくみ、心の成長につながる。 <p>評価日 平成２９年１０月２６日</p> <p>評価者 学校評議員</p>

各種指標結果（２回目）		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ８割近い子どもがルールを守って生活している。 ・ 携帯電話のルールは４割の家庭で決められていない。 ・ 悩みを相談できている家庭は２割に満たない。 ・ 夕飯を家族揃ってとれている家庭は４割程度である。 		
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・ 規範意識は前期と同様、高いことが窺える。 ・ 携帯電話のルールについてはまだまだ意識が低く、今回実施した携帯アンケート調査の結果を分析し改善の必要がある。 ・ 悩みについての親子の会話や夕飯の共食については、２割の家庭で課題が出ている。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己指導力をつけるための学校教育全体での取り組みが必要である。 ・ 携帯およびスマホについては、保護者啓発をさらに積極的に展開し、学校との協力体制を構築することが急務である。 ・ 保護者の子どもの養育力の課題を、関係機関をうまく活用しながら解決することが虐待などの問題への大きな解決の糸口になると考える。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会の中で家庭が孤立していないか、また、家庭の中で子どもが孤立していないか検証する手立てが必要ではないか。 ・ 携帯・スマホの利用のルールについては、家庭が責任を持って明確にする。 ・ 親の責任としてフィルタリングなどアクセス制限をすべきではないか。また、子どもを信用しているという理由で制限をかけないのは親の責任放棄ではないか。 ・ 社明運動などでの生徒の作文に独創性や発想力が感じられない。 	
	評価日 平成３０年１月２５日	評価者 学校評議員

(3)「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動やスポーツの実践と体力の向上 ○ 食に関する指導の推進 ○ 安全教育の充実 		
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 早寝・早起き・朝食の重要性を強調し、基本的生活習慣の定着をはかる。 ○ 授業や体育的行事、運動部活動を通して運動する喜びや成就感を味わえる取り組みを行う。 ○ <u>薬物乱用防止教育や性教育（女子の性・安全教育も含む）の充実</u>により、危険から回避する力を身につけさせる。 ○ 様々な事故・事件に巻き込まれないように適切な行動ができるように安全・防災教育を行う。 ○ 自転車の乗り方指導や事故回避についても関係機関と連携をとり、本年度は外部の機関を招いて安全教育を行う。 		
	<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 決まった時刻に起床している。 ○ 決まった時刻に就寝している。 ○ 毎日朝食を摂っている。 ○ 毎日21時までには夕食を終えている。 ○ 毎日十分な睡眠時間が取れている。 ○ 交通ルールを守って生活している。 		
	<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの子どもの基本的生活習慣が定着しているが、全体の1割前後の子どもが不規則な生活を送っている。 ・睡眠時間については、4割以上の子どもたちが十分にとれていないことが覗える。 		
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の1割前後の子どもが不規則な生活を送っている。夜更かしをして朝起きるのが遅く、朝食も採らずに登校している。 ・4割以上の子どもたちの睡眠時間が少なく、日付が変わってから就寝し、7時以降に起床している実態がある。その結果、授業への集中力がなくなり、学習意欲の低下につながっている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の不規則な子どもについては、その実態を把握して個別の指導が必要である。当然のことながら家庭との協力関係も築きながら対策を講じていく。 ・携帯、スマホの利用時間についてのアンケートを後期の評価項目に入れ、その結果と睡眠時間や就寝時間の結果とをリンクさせた分析を行うことが肝要である。 		
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満傾向の生徒が少ないように思うが、その要因として食生活が安定しているのか、食事時間が影響しているのか、現状を把握していく。 ・夕食時間が遅い家庭にはどのような原因があるのか、塾通いや保護者の帰宅時間の問題なのか、様々な要因があるので追跡調査が必要である。 ・登下校時のマナーはおおむね良好である。 <table border="1" data-bbox="193 2083 1453 2128"> <tr> <td data-bbox="193 2083 837 2128">評価日 平成29年10月26日</td> <td data-bbox="837 2083 1453 2128">評価者 学校評議委員</td> </tr> </table>	評価日 平成29年10月26日	評価者 学校評議委員
評価日 平成29年10月26日	評価者 学校評議委員		

各種指標結果（２回目）		
<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間は十分にとれていない子どもが５割ある。 ・携帯の利用やテレビの視聴を自己管理できている子どもは５割程度。 ・疾病治療については３割程度の家庭しかできていない。 ・運動不足の子どもが４人に１人いる。 		
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間が十分にとれていない現状があり、携帯の利用時間やテレビの視聴時間と比べる中で一定の関連性があると考えられる。 ・約５割の家庭で自己管理ができておらず、そのことが不規則な生活習慣に影響を及ぼしている。 ・運動不足の子どもが多く、携帯の利用などと関連が強いように思われる。 ・疾病治療についても意識が低く、働きかけが必要である。 	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身に毎日の生活を管理コントロールできる力をつけさせるための取り組みが必要である 当然のことながら家庭との協力関係も築きながら対策を講じていく。 ・食生活と基本的な生活習慣の関係を明らかにするための、来年度の学校評価項目を再検討していく必要がある。 	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・テレビやゲームにかけている時間はどの程度なのか。 ・部活動やスポーツをしていると健康につながるのではないか。 ・けんかなどは減っているが不登校が増えている。 ・疾病治療の通知の質問には、疾病がない場合の回答の仕方がわかりにくかった。 	
	評価日 平成３０年１月２５日	評価者 学校評議員